

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-127912

(P2000-127912A)

(43) 公開日 平成12年5月9日 (2000.5.9)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 0 S 3/04

9/04

識別記号

F I

B 6 0 S 3/04

9/04

テーマコード (参考)

3 D 0 2 6

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-347718

(22) 出願日 平成10年10月20日 (1998. 10. 20)

(71) 出願人 596176806

林 慶彦

鹿児島県鹿児島市花野光ヶ丘一丁目36番18号

(72) 発明者 林 慶彦

鹿児島県鹿児島市花野光ヶ丘一丁目36番18号

Fターム (参考) 3D026 AA03 AA12 AA23 AA26 AA33
AA38 AA42

(54) 【発明の名称】 ストレッチ体操洗車具

(57) 【要約】

【課題】イ 小型車はもちろん、大型車も、女性や年輩の人が一人で楽に洗車できる。

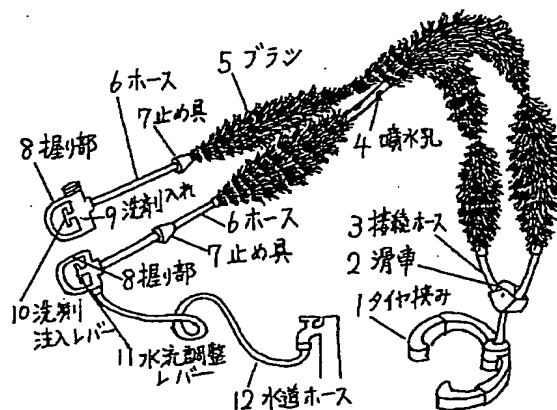
ロ 踏み台や雨靴などの補助具がいらない。

ハ 背伸びをしたり、体を屈めたりする、無理な姿勢をしない。

ニ 衣服などを濡らさない。

以上のような快適な洗車具を提供する。

【解決手段】タイヤ挟み (1) に滑車 (2) を設け、噴水孔 (4) を備えたホース (6) を接続ホース (3) に連結する。ブラシ (5) をホース (6) に通して、止め具 (7) で止める、握り部 (8) をホース (6) に取り付ける。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】タイヤ挟み(1)に滑車(2)を設け、数個の噴水孔(4)を備えた適当な長さのホース(6)

(6)を接続ホース(3)に連結する。だ円形をした筒型のブラシ(5)を数個ホース(6)(6)に通し、止め具(7)(7)で止める、握り部(8)(8)をホース(6)(6)に取り付ける。以上のごとく構成された洗車具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、滑車にホースを掛け、ホースに取り付けた、双方の握り部を前後左右に動かすことによって洗車する、洗車具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、水圧で噴射、回転させ洗車するもの、動力で洗車するもの、ブラシやモップ類で洗車するものがあった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これは次のような欠点があった。

(イ) 水圧機や動力機などは高額である。

(ロ) 車体の上部を洗う際に、背伸びをしたり、踏み台などの補助具が必要であった。

(ハ) 洗車の際に車体が近づくため、衣服を濡らしたり長靴を必要とした。

本発明はこれらの欠点を除くためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】タイヤ挟み(1)に滑車(2)を設け、数個の噴水孔(4)を備えた適当な長さのホース(6)(6)を接続ホース(3)に連結する。だ円形をした筒型のブラシ(5)を数個ホース(6)(6)に通し、止め具(7)(7)で止める、握り部(8)(8)をホース(6)(6)に取り付ける。以上のごとく構成された洗車具。

【0005】

【発明の実施の形態】タイヤ挟み(1)を両手で開き、タイヤに取り付ける。次にホース(6)(6)を接続ホース(3)に連結し、ブラシ(5)をホース(6)(6)に通して、止め具(7)(7)で止める。握り部(8)(8)をホース(6)(6)に取り付け、水道ホース(12)を連結する。水道水は水流調整レバー(11)で調節する。ハイルーフ車は、ホース(6)(6)をルーフ上に投げ上げて使用する。双方の握り部(8)(8)を両手で握り、腕を前後左右に動かしながら、車の周りを移動して洗車する。タイヤ挟み(1)は順次、他のタイヤに移し替える。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。タ

イヤ挟み(1)は、バネ式で作成され取り付け、取り外しが容易にできどのタイヤのサイズにも合うように調節ができる。タイヤ挟み(1)は、[図2][図3][図4]に示される、3種類の方法がある。

【図2】タイヤ挟み(13)(13)を、二本のタイヤに取り付け、レール(17)をセットする。滑車(14)の移動は滑車(14)と接続ホース(16)の双方に突起(15)を設け、掛かりと滑りによって移動する。

【図3】滑車(19)を、ジャッキ(18)またはバネ式により、前後のタイヤの中間に固定する。これは移動式であるので車体の下部のどこでも固定することができる。

【図4】滑車の部分がアーム式に作成されて、アーム(20)は通水ができる。タイヤ覆い盤(21)により、タイヤによるブラシの汚れを防ぐことができる。接続ホース(3)は、図6の空拭用ネットが接続できる。噴水孔(4)は、ホース(6)(6)に数個設けられている。ブラシ(5)は噴水孔(4)より、噴水される水を通す、取り替えることができ、またモップ類でも作成できる。ホース(6)(6)は二本で使用されているが、接続ホース(3)を省き、一本でも実施できる、また車種によりホースの長短が自在である。止め具(7)は、ブラシ(5)を止めるが、水切りの役目も果たす。握り部(8)(8)は、ホース(6)(6)に取り付ける、片方は洗剤入れ容器が備わり、もう片方は水道ホース(12)が接続できる。双方ともレバー(10)(11)によって調節ができる。【図5】ひさし保護ローラ(24)は、ひさし下の窓ガラスに、吸着盤(22)によって取り付けられ、ブラシ(5)がひさしに掛るのを防ぐ、またブラシ(5)の滑りを補助する。心棒(23)は窓の長さに合わせて伸縮できる。【図6】空拭用ネットは、古いバスタオル、タオル、古布類を中に入れて空拭に使用する、網目は布地が拭取り面に接着しやすくように広く作られている。入れ口(25)はネットの重なり部分を多くとっているため、ファスナなどの止め具がいらない、ネットは一本でも使用でき連結もできる。

【0007】

【発明の効果】(イ) 背伸びや、屈んだりしないでよい。

(ロ) 車体から適当に離れることができ衣服を濡らさない。

(ハ) 踏み台や、長靴などの補助具がいらない。

(ニ) 両手を適当に動かし、ストレッチ体操をしながら、楽しく洗車ができる。

(ホ) 女性や年輩の人でも、楽に洗車ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の斜視図

【図2】 本発明の他の実施例を示す斜視図

【図3】 本発明の他の実施例を示す斜視図
 【図4】 本発明の他の実施例を示す斜視図
 【図5】 本発明に使用される補助具のひさし保護ローラの斜視図

【図6】 本発明に使用される空拭用ネットの斜視図

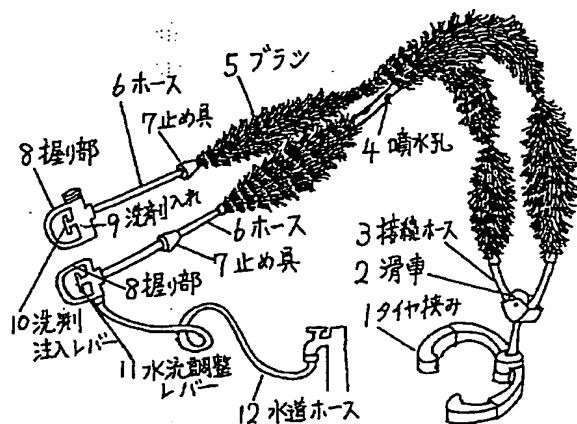
【図7】 本発明の使用状態を示す斜視図

【符号の説明】

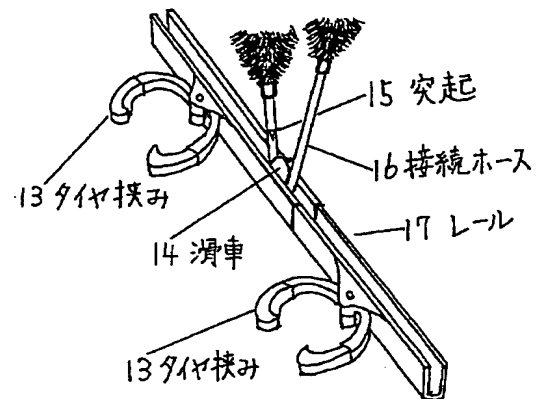
- 1 タイヤ挟み
- 2 滑車
- 3 接続ホース
- 4 噴水孔
- 5 ブラシ
- 6 ホース
- 7 止め具
- 8 握り部
- 9 洗剤入れ
- 10 洗剤注入レバー
- 11 水流調整レバー
- 12 水道ホース

- 11 水流調整レバー
- 12 水道ホース
- 13 タイヤ挟み(図2)
- 14 滑車(図2)
- 15 突起
- 16 接続ホース(図2)
- 17 レール
- 18 ジャッキ
- 19 滑車(図3)
- 20 アーム
- 21 タイヤ覆い盤
- 22 吸着盤
- 23 心棒
- 24 ひさし保護ローラ
- 25 入れ口
- 26 網目
- 27 握り部(図6)

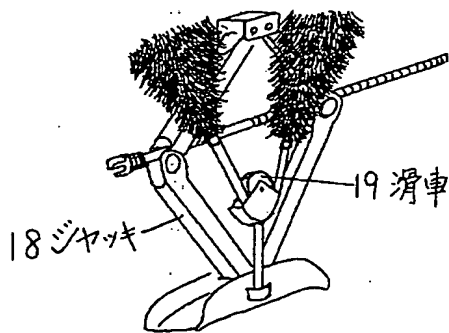
【図1】



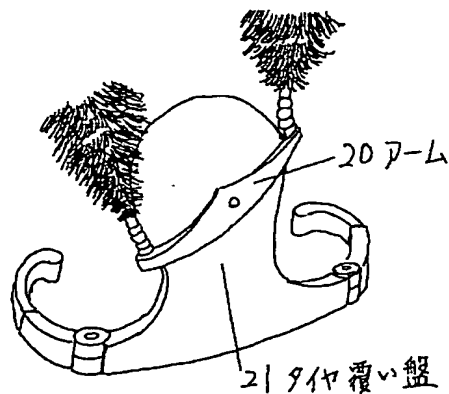
【図2】



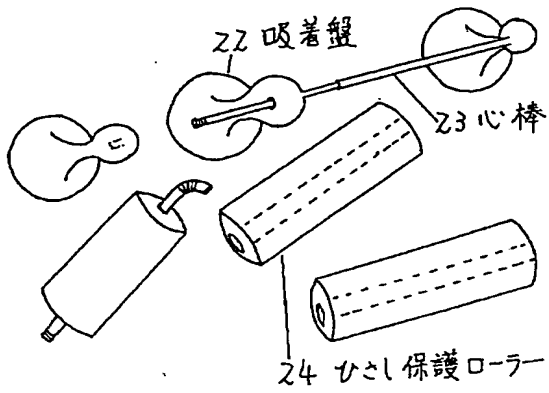
【図3】



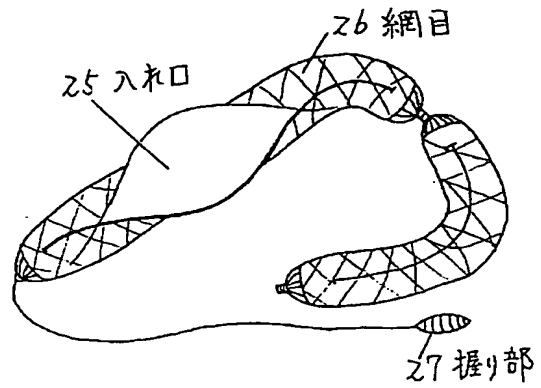
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

